

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈4月10日（金）放送分〉

テーマ「奄美の民話や昔話」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今日は、毎月第2金曜日にお届けする、「鹿児島の民話や昔話」シリーズの第1回、北薩地方の昔話「サルどんとカニどんの餅合戦」です。

むかし、むかし、サルどんとカニどんが、住んでおったそうな。年も押し迫り、正月どんも近づいてきおったので、サルどんは、「カニどん、もう、あさっては正月どんじゃんなあ。おはんといっしょに、餅でも、つこかいなあ。」と、カニどんに相談を持ちかけてみた。そしたら、カニどんは、それを「快く承知しおって、うん、そげんすっがなあ。ほんなら、おや、杵を作る木を探してくつでなあ。」と、早速、木を切る鉈を持って、杵を作る木を探しに出かけていった。

しばらく細い道を歩いていきおると、その山道はだんだんぐにやぐにやーと曲がりくねってきた。また、面白いことに、その曲がった道の両側に生えている木も、みんなぐにやぐにやーと曲がっておったそうな。カニどんは、「餅をつく杵には、こん曲がった木のほうが、かえってよかかも。」と思うて、一番曲がった木を切り出して、急いでサルどんのいる所へ帰っていった。

早速、その木をサルどんに見せると、「こげん曲がった木で、杵がでくいもんなあ。まっすんか木を切ってきてゃんせえ。」と、サルどんは、せっかくカニどんが切ってきた木を、ぼいとつつ返してしもうた。

そこで、カニどんしぶしぶ鉈を持って、また、細い道を歩いていきおったら、今度は、まっすぐな道ばっかいであった。その道の両側には、まっすぐな木がしゃんと立っておったので、そのまっすぐな木を根もとからたたっ切って、持ち帰っていったそうな。

帰ってみると、サルどんは、さっきの曲がった木で杵を作り、もう、とっくの昔に、餅をつき終わっていた。しかも、その餅はただの一つも残さず、米袋に詰め込んで、サルどんは庭の柿の木の、小枝に腰掛けて悠々としておった。そして、カニどんが帰ってきたのに気がつく、「ゆさごんたろべえ、ゆさごんたろべえ。」と、枝をゆさぶい、ゆさぶい、餅を米袋から出しては食べ、出しては食べしておったそうな。

二度も、杵になる木を切りにいったカニどんは、もう、すっかり疲れ切って、お腹もぺこぺこになっておったので、木の上のサルどんを見上げて、「サルどーん。おれにも、そん餅をくれんかあーっ。腹が減って腹が減って、たまらんがー。」と、頼み込んでみたが、サルどんは、「べーろ。」と舌を引っ張ったり、お尻をぺたぺたーと叩いてみせたりするばっかいで、なかなかカニどんには、餅を分けてはくれない。そこで、カニどんは、サルどんに向かって大きな声で、「サルどーん。そん米袋を、

枯れ枝に引^{はかりごと}かけて揺さぶれば、えらい、おもしろとかどお。」と言うた。そしたら、カニどんの謀とは知らぬサルどんは、「えいっ。」と身軽に、枯れ枝に乗り移り、その枯れ枝に餅の入った米袋を吊^{つる}して、「ゆさごんたろべえ。ゆさごんたろべえ。」と、大きく揺さぶった。と、その途^{とたん}端、ぼきぼきーっと、その枯れ枝が折れ、どさーっ、ばらばらーっと、サルどんの体と一緒に、その餅も落ちて地面に散らばってしもうた。「それーっ。いまんうっじゃ。(今のうちだ)」と、カニどんは、必死になって餅をかき集め、素早く小穴の中へ、逃げ込んでしもうたそうなの。

カニどんに謀られたサルどんは、かんかんに怒って、小穴の中に足を入れてみたり、手を入れてみたりして、カニどんを捕まえようとするのだが、一向に、その手や足が、カニどんの所へは届かない。そこで、仕方なく、「こらっ、カニどん。わや、はよ出てこんか。出てこにゃ、おいが、糞^{くそ}をすっでね。」と言うて、お尻を小穴の入口に向けおった。そのとき、穴の中からカニどんが、「えいーっ。こん野郎めがーっ。」と、カ一杯、銚^{はさみ}でサルどんのお尻を、挟^{はさ}みつけてしもうた。「あいた、た、た、た。許せえ。許せえ。毛はくるっで、許せえ。」と、サルどんは痛くてたまらず、涙をぽろんぽろん落として謝った。

そこで、ようやく、カニどんは、銚を放してやったが、サルどんのお尻の毛がそのまんま、すぽっと抜け落ちて、カニどんの銚にそのまんま残ってしもうたそうなの。そして、今のサルのお尻は赤くて毛がなく、カニの銚には毛があるっちゅう話です。

さて皆さん、今回のお話はどうでしたか。欲深くてお餅を独り占めにしようとしたサルが、最後はカニに餅を取られた挙げ句、お尻の毛まで失うというものでした。有名な「サルカニ合戦」等、昔から多くの昔話において、サルとカニは永遠のライバルのように描かれています。

鹿児島ではカニを「ガネ」と呼び、芋^{いも}のカキアゲのことをカニの形に似ているということで郷土料理「ガネンテンプラ」と名付けられ、お馴染み^{なじ}です。銚に毛がついたカニは、モクズガニという種類で、こちらは「山太郎ガニ^{やまたろう}」と呼ばれ、茹でるととてもおいしいカニです。

このように奄美図書館には、郷土に伝わる昔話を紹介した本がたくさんあります。ぜひ図書館にいらして、いろいろな本を手にとってほしいと思います。職員一同、皆様のご来館を心よりお待ちしております。以上、鹿児島県立奄美図書館でした。